

# どこまでも市民派・土光ひとしの

議会・市政を  よどえ 身近なものに



# 議員活動かわらばん

(連絡先) 米子市淀江町淀江553-4 ☎(0859)56-3339 FAX(0859)56-2905

**ご意見をお寄せ下さい**

(HP) <http://dokohitoshi.mimoza.jp/> (メールアドレス) dokohitoshi@my-s-pace.jp (会派:希望)

(会派:希望)

# 虚構の「専門家会議」

**米子の産廃最終処分場建設 「問題ない」専門家見解**

県など出資の第三セクタ  
ー・県環境管理事業センタ  
ーが米子市淀江町小波に計  
画する産業廃棄物最終処分  
場建設の専門家会議が23  
日、同市内であった。周辺  
環境への悪影響を懸念する  
住民の質問16項目につい  
て、専門家3人が現在の技  
術水準や計画する対策を考  
えれば、いずれも問題はな  
いとの見解を示した。

建設計画には地元6自治  
会のうち2自治会の合意が  
得られておらず、地域外の  
住民からも地下水汚染など  
を懸念する意見や質問が出  
ている。このため、市と市  
議会から市民に丁寧な説明  
をするよう要請を受け、県  
が専門家会議を設けた。

会議で、北海道大大学院  
の松藤敏彦教授（廃棄物処  
理工学）は地下水汚染を防  
ぐ遮水シートの耐久性を疑  
問視する質問について、シ  
ート1枚でなく、シート2枚  
と、水を通しにくい素材  
「ベントナイト混合土」の  
3重構造で防ぐという事業  
計画の対策で十分との見方  
を示した。

県の酒嶋優生活環境部長  
は科学的な知見をもらい、  
効果があった」とし今後は  
県廃棄物審議会の意見を踏  
まえ、合意形成の手続き終  
了を判断とした。

(狩野樹理)

2月24日  
山陰中央新報



## 2017年11月9日に 米子市が鳥取県に提出した意見書（抜粋）

また、関係住民への説明会、関係住民から提出された意見書及び再意見書において、生活環境影響調査の結果、搬入管理、遮水構造、集中豪雨への対応、地震による影響、放流先の水質への影響、**地下水への影響等**のご意見があつたものと考えておりますので、専門家で構成される鳥取県廃棄物審議会の意見を聴くなど、施設の安全性について十分に確認していただきたいと思います。

施設の安全性について、  
ますよう要請いたします。  
なお、このたびの事業計画の関係住民以外の  
地元関係者においても、事業計画に対する懸念  
や不安を訴える声があり、反対の意を表明され  
ている方々もありますので、事業主体に対し地  
元関係者に対して丁寧に対応することを助言し  
ていただきますようお願いいたします。

先月23日（金）淀江に計画されている産廃処分場計画に関して「専門家会議」なるものが開かれました。（左の新聞記事参照）

これは、産廃処分場建設計画に関して、様々な疑問・問題点が地元住民から出されていて、また、米子市も「施設の安全性について十分確認するように」鳥取県に要請していることを受けて、これらの問題を、中立的な専門家によって、科学的・客観的に議論・評価するためのものでした。新聞報道では「問題ない」と専門家が見解を述べたというもの。

しかし、私が傍聴してみての印象は、この計画の事業主体である環境管理事業センターのこれまでの言い分を代弁してくれそうな専門家を県が選び、「専門家の口」を借りて「安全性のアピール」をするためのものであったとしか思えませんでした。。

「会議」とは名ばかりで、専門家の間での議論は全くありませんでした。

私は、安全性に関して様々な立場の専門家が客観的・科学的な議論かがなされるものと思い、その議論に耳を傾けるため傍聴に行きました。しかし、当日の様子に「啞然」とすることばかり。

まさに、「虚構の専門家会議」でした。

私たち地元住民の最大の関心事である「水源地の上流に設置される産廃処分場」について専門家たちはその安全性に関してどう議論し、どのような評価だったのでしょうか？

その実態を、報告します。

裏面に詳細

# こそそと開かれる

この会議、23日開催であったが、そのことが県から米子市等に公表されたのは19日、米子市から議員に通知があったのは21日（開催2日前）、時間帯は朝の9時から。いかにも住民には来てほしくないような開催の仕方。県のこの会議に関しての住民への姿勢が見て取れる。

## 地下水についての議論なし

専門分野	氏名	役職
廃棄物処理工学	松藤敏彦	北海道大学大学院工学研究院 環境創生工学部門教授
環境システム工学	中山裕文	九州大学大学院工学研究院 環境社会部門准教授
生物地球化学	角野貴信	公立鳥取環境大学環境学部 環境学科准教授
水管理(地下水)	北村義信	鳥取大学国際乾燥地研究 教育機関特任教授

上記は、この専門家会議のメンバー。地下水の専門家も含まれている。この北村教授は、住民側も地下水の議論には欠かせないと専門家会議の委員として推薦していた方。

専門家会議の中で、地下水についてどのような議論がなされるのか期待されていた。

**ところが、…………**

当日、北村教授はなんと「欠席」とのこと。県はその理由も明らかにしないまま、会議が開催された。欠席であることがわかりながら会議の開催を強行した。**当然、地下水に関する議論は一切なし。**

形だけ、地下水の専門家を含む「専門家会議」と見せかけて、実は議論をしないまま表面の新聞報道のように「専門家の見解：問題なし」を市民にアピールすることが目的だったのか！？

## 「会議」とは名ばかり

当日は、県による急な決定を知って住民たちは、平日朝9時からの開催にもかかわらず、専門家たちの間でどのような議論が交わされるのか注視するため、なんとか都合を付けて傍聴に出かけた。

**ところが、…………**

専門家どおしの議論は全くなし。当日出席した3人の「専門家」は、「計画されている産廃処分場は安全で、何の問題もない」との見解で、はじめから一致しているみたい。県はそういう人たちを専門家として選んで、来てもらったみたい。遠くは北海道から、九州からも。

当日、何が行われたかというと、「会議」ではなく、「傍聴者に対する説明会」。それも一方的な。

私を含めての傍聴者に対して、計画されている処分場がいかに安全かを延々としゃべるだけ。その内容に対して、疑問の声をはさもうものなら、司会進行の循環型社会推進課の山根課長のマイクを使ってのヒステリックな声。「傍聴者は静かにして下さい！」「ルールを守れないなら退席してください！」

傍聴者のレッテルを貼り、発言を許さず、とにかく「安全である」との専門家の見解を一方的に聞かせるだけ。（これは知的拷問だ！）



「傍聴者に説明をする会議」のありようの滑稽さ、理不尽さ。このような扱いを受けた傍聴者の一人は「行政による出席者の洗脳だ」とコメントしていた。

「専門家会議」のありようの余りのひどさに關して

私が鳥取県知事に提出した文書

2018年02月23日(金)

鳥取県知事 平井伸治 様

本日、淀江産業廃棄物管理型最終処分場計画に関する専門家会議を傍聴しました。

この会議は、産廃計画に関する周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地から議論の場を設けることにより、その疑問点を解消しようとするためのものであると理解していました。

しかしながら、本日の会議を「傍聴」して、失望の念を禁じ得ません。

まず、わずか4人の委員で構成される会議であるにもかかわらず一人が欠席ということで開かれています。

その一人の方は、住民側が推薦して、その方を含めた議論が聞きたいと思っていた方です。

なぜ、一人の方の都合が悪いにもかかわらず、本日の会議を設定したのですか？

また、本日の会合は、「会議」と言えるものではなく、単なる「説明会」に過ぎませんでした。

私は、あくまでも、「産廃計画に関する周辺住民のいろいろな疑問点について、様々な立場の専門家が科学的見地からの議論」を、傍聴するために来たのです。専門家の間で、そのような議論は一切なされませんでした。

もし、専門家による、住民に対しての説明会として開催するならば

1.事前の告知を、期間をかけて十分にすべき

2.資料は、事前に配布すべき

3.直接やりとりできる質疑応答の時間を、十分に設けるべき

です。

今日の会議の進行では、私たちを傍聴者と位置づけ、発言は一切許さないまま、一方的に話を聞かせる会に過ぎませんでした。

このような会を開いても、この産廃問題の様々な住民の疑問点を解消することはできません。

改めて、この計画に対して、住民が不安に思っている事柄・課題について、いろいろな立場の専門家の間の議論の場を設けることを要望いたします。

米子市議会議員 土光ひとし

## 本日、米子市長に見解をただします

本日（8日：木曜日）の米子市議会の私の各個質問で、鳥取県がこのような理不尽な「専門家会議」を開催して、安全のお墨付きを得たとして計画実現に向けた手続きを進めようとしていることについて、米子市民の安全・安心を守る立場である米子市長に見解をただします。

表面の意見書にあるように、米子市は「地下水についての懸念」など安全性について十分な議論、そして地元住民に対してのていねいな説明を県に要望しているのですから。



昨年12月議会の各個質問の様子

※私は4番目ですので、質問開始時刻は2時頃になると思われます。前の3人の質問の時間に左右されますので大幅に前後する可能性があります。

(中海テレビ、インターネットでのライブ中継あり)